⑤　鳥取県立博物館裏山のコンクリート階段擁壁の正体

村尾　修一

県庁からほど近い久松山下、鳥取城跡周辺に県立鳥取博物館があります。

博物館の山側には、山すそに沿ってコンクリートでできた階段状の擁壁がきれいに円弧を描いて博物館を囲んでいます。このコンクリート階段擁壁には、もともと別の役割がありました。

博物館は昭和４７年（１９７２年）に開館しましたが、それ以前はそこに戦前から鳥取市公設運動場（野球場）がありました。

鳥取城跡周辺では、まず、大正１２年（１９２３年）に市民の要望を受けた旧藩主鳥取池田家により久松公園が開設されました。その翌年にこの運動場が整備されました。この運動場は、城代屋敷、厩（うまや)、米蔵だった跡地を明治４０年（１９０７年）に侯爵池田家により扇邸（仁風閣）の果樹園として造営され、その後大正１３年（１９２４年）に皇太子のご成婚記念として鳥取市が整備したものです。運動場の山際には昭和８年（１９３３年）の皇太子誕生を記念し国旗掲揚台が設置されており、現在も基礎部は「萬歳」の字とともに残っています。

運動場の整備は、広さを確保するために久松山の山すそを削ったものと推察されます。削った山すそにはゆるやかにカーブした１０段程度のコンクリート階段状の擁壁が整備されています。つまり、この階段状のコンクリート擁壁は、運動場（野球場）のスタンド（観客席）であったのです。

この様子は、国土地理院の米軍撮影の空中写真（昭和２７年）と鳥取こちずぶらり（(ｃ）県立博物館）を比べて見るとわかります。うっすらとホームベースの位置、野球のダイヤモンドの形がみてとれます。ホームベースは現在の鳥取北中学校側にあり、１塁側がお濠側、３塁側からレフトにかけてがこのスタンドだったのです。この運動場は、高校野球や高校の運動会など当時の県東部のスポーツ等の中心的役割を担っていたほか、メーデーなどのイベント会場としても利用されていたようです。

現在このスタンドを含むエリアは東町Ｂ地区急傾斜地崩壊危険区域（土砂災害警戒区域（イエロー区域)）に指定されており、スタンドが対策工として博物館を防護しているようにも見えます。

また、現在の県立博物館脇をよく見ると運動場を示す鳥取運動場碑が当時のまま立っています。

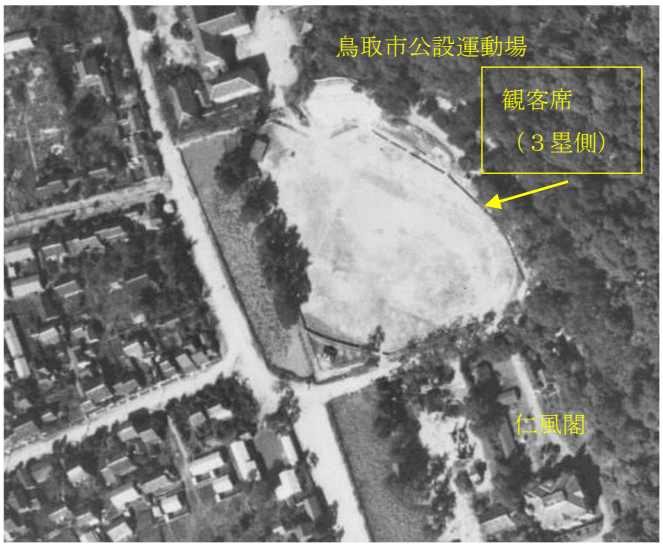
私はこの場所が野球場だったという話を、高校２年か３年の頃に地理のＮ先生から授業の中で聞きました。Ｎ先生は野球が好きで、授業の中でも時折話が脱線し、プロ野球や高校野球の話になったりしていました。Ｎ先生いわく、ここでプロ野球南海ホークス（現ソフトバンクホークス）や阪神タイガースなども試合をしたことがあり、球場が狭くてホームランがたくさん出たとのことでした。

私はなぜかこの話をよく記憶していて、自分でも不思議に思います。

その後、野球場はというと、昭和５７年（１９８２年）に鳥取駅南（鳥取市吉成）に現在の市営野球場として移転しています。

私は博物館の後ろのこのスタンドを目にするたびに、はるか４０年近く前のＮ先生の授業中の風景がよみがえります。　参考資料：鳥取県立博物館鳥取こちずぶらり

昭和 27(1952)/11/2 の状況（米軍撮影）（所蔵　国土地理院）



平成 21(2009)/8/19 の状況（所蔵　国土地理院）

博物館を取り囲むスタンド（３塁側）の様子

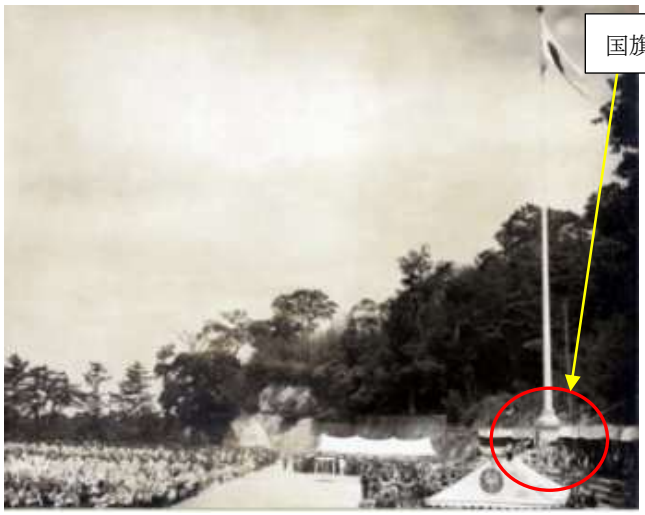
外野（センター方向を望む）

昭和４３年（１９６８年）/鳥取こちずぶらり（所蔵　鳥取県立博物館）

現在（令和５年３月）

現在もそのまま残る鳥取運動場の碑

当時の国旗掲揚の様子（鳥取こちずぶらり　所蔵　鳥取市歴史博物館）



現在の国旗掲揚台（令和５年３月）

※基礎の形状は当時から少し変更されています。

現在も掲揚台基礎に残る「萬歳」の文字　※当時の揮毫から張り替えられています。

急傾斜地指定看板（東町Ｂ地区）

（拡大写真）